

# 平成 24 年度事務事業評価調書

事業コード	04020303	区 分	<input type="checkbox"/> 実行	<input checked="" type="checkbox"/> 経常
事務事業名	棚田ふる里保全基金事業	担当部署名	地域振興課むらづくりグループ	
		作成責任者職氏名	課長 北浦秀明	内線 451
第4次総合計画体系	(基本柱)	(基本施策)	(細施策)	
	04観光・産業・地域振興	02農林業の振興	03遊休農地の解消	
実施期間	<input type="checkbox"/> 単年 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 ( 年度～ 年度)		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助等
根拠法令等	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	法令等の名称	— 義務付け <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

## I 事務事業の概要<Plan>

(1)事務事業の目的及び内容	(2)対象(誰を対象とするのか)
<p>①目的</p> <p>日本の棚田百選の一つである下赤阪の棚田で、農地所有者だけでなく都市住民との交流により保全活動に取組み、広く棚田の有する多面的機能の周知などを行い、更なる保全に努める。</p> <p>②内容</p> <p>大阪府棚田ボランティアの農業作業や貸農園による農業体験で耕作放棄地を解消する。</p>	<p>土地所有者・都市住民</p>
(3)期待される効果(本事業によって対象者をどのような状態にしたいのか)	(4)事務事業を進める上での課題や問題
<p>農業への関心の深まりと、耕作放棄地の解消</p>	<p>農業従事者の高齢化を避けることができない中、現在の事業内容を継続するだけでは、将来にわたって保全し続けることは困難である。</p>

## II 事務事業の実施<Do>

(1)事務事業の事業費及びコスト費								
	22 年度 実績	23 年度		24 年度 事業費(見込)	25 年度 事業費(見込)			
		事業費(予算)	実績(見込)					
事業費(見込含む)(千円)(A)	400	400	400	400	400			
財 源 内 訳	国庫支出金							
	府支出金	200	200	200	200			
	分担金・負担金							
	使用料・手数料							
	起債							
その他の特財								
一般財源	200	200	200	200	200			
人 件 費	一般職員所要人員(人)(B)	0.20	0.20	0.20	0.20			
	一般職員人件費(平均給与×(B))(千円)(C)	1,244	1,244	1,244	1,244			
総コスト費(千円)(A+C)	1,644	1,644	1,644	1,644	1,644			
人口あたりコスト(円)	267	267	267	267	267			
(2)成果指標等								
番号	指標区分	指標名称	単位	23 年度			24 年度 目標値	25 年度 目標値
				目標値	実績値	達成率(%)		
①	目標指標	棚田保全活動	回	6	6	100%	6	6
②	目標指標	参加数	人	120	118	98%	120	120
③	目標指標							

### III 事務事業の評価<Check>

(1)成果の自己検証		
評価項目	評価結果	評価の理由及びその考え方
①妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	3 4. 大いに貢献している 3. 概ね貢献している 2. あまり貢献していない 1. 貢献していない	耕作困難な棚田農地の遊休地化を抑制することができた。
②有効性 ※期待された効果が得られているか	3 4. 効果がある 3. 一応の効果がある 2. あまり効果がない 1. 効果がない	行政による補助金が交付されることにより、営農(農地保全)意欲の増に結びついている。
③効率性 ※効率的に進められているか	3 4. 非常に効率は良い 3. 概ね効率は良い 2. あまり効率は良くない 1. 効率は良くない	当該区域の保全活動として最低限必要な補助金である。
④公平性 ※受益や負担が公平になっているか	2 4. 公平である 3. 概ね公平である 2. 少し偏りがある 1. 公平ではない	他にも耕作困難地があり、棚田百選であることを以て補助対象とするだけでは公平性に欠ける面がある。

○事務事業評価値 (①~④の合計/16) **11** / 16 **69%** (B)

(2)検証結果			
目標指標評価値 (A)	事務事業評価値 (B)	総合評価値 (A)+(B)/2	評価ランク(改善の目安)
<b>99%</b>	<b>69%</b>	<b>84%</b>	<b>b</b>
a: 90%以上(現状維持又は拡充) d: 30~49%(休止・廃止又は縮小) b: 70~89%(見直し又は現状維持) e: 30%未満(休止・廃止) c: 50~69%(縮小又は見直し改善)			

### IV 事務事業改善の方向性<Action>

(1)改善の方向性	
①改善の方向性(自己評価)	← A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
<b>B</b>	
②改善の方向性の理由、改善する上での具体的な改善策や課題等	
日本の棚田百選の一つである下赤阪の棚田で、農地所有者だけでなく都市住民との交流により保全活動に取組み、広く棚田の有する多面的機能の周知などを行い、更なる保全に努めるため、引き続き実施する。	

### V 事務事業評価結果(担当者は記入しないでください。)

(1)政策担当結果	
棚田の保全に必要な事業であり引き続き実施すべきと考えるが、従事者の高齢化への対応の検討が必要と考える。	<b>B</b> A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(2)第三者による有識者会議結果	
	<b>/</b> A: 拡充 B: 現状維持 C: 見直し D: 縮小 E: 休止・廃止
(3)行政経営戦略会議結果	

棚田の保全に必要な事業であり引き続き実施すべきと考えるが、従事者の高齢化への対応の検討が必要と考える。

B

A: 拡充  
B: 現状維持  
C: 見直し  
D: 縮小  
E: 休止・廃止

(2/2)